

押しかけ実習生を歓迎する

今、すずき産地に一人の若者が実習に来ています。水戸市内原にある鯉淵学園の学生で、うちの長女の後輩ということにもなりますが、この春休みを利用し、(ちょっと驚くけど)自主的にやってきました。

家庭は農家でもなんでもなく、神奈川県川崎市のマンションで生まれ育ったという村沢くん。

高校の修学旅行で訪ねた沖縄でサトウキビ収穫など農作業体験をしたそうです。そんな企画をする学校もな

かなかですが、その話は省略して、とにかくそのときに農業に魅力を感じてしまったとか。そして、じっさいに農業の専門学校に入学して、この春から2年生になります。

今週いっぱい、鶏の世話やケイフン採取、田んぼへの散布などで朝から晩まで汗を流しています。たまたま明日は、千葉県農民連の青年部のメンバーたちが北茨城のほうへ泊まりがけで来るというので、そこでの交流にも参加してもらえそうです。



自家採取しておいたイネの種モミのノゲとり作業。ほこりまみれの仕事も一生懸命です。

遺伝子組換え ナタネの侵入 調査活動に協力を(予告)

けさ農民連の食品分析センターから届いた緊急メールを、とりいそぎ転載します。くわしい話は次号に。

＊

2003年頃から、ナタネが輸入される港の空き地や道路脇などで遺伝子組換えナタネが自生しているというデータが、市民グループの献身的な活動をはじめ、行政からも報告されてきました。05年には農民連食品分析センターでも、同様

の結果を確認することができました。

もしかしたら遺伝子組換えナタネが、知らないうちにあちこちで勝手に生えて、広がっているかもしれません。さらには日本のアブラナ科植物や農作物と交配して、組換え遺伝子がこっそり入り込んでしまうのかもしれません。

私たち農民連食品分析センターは、自

然と肩を組みながら暮らす農家の一員です。この先、どうなってしまうのかがとても心配でなりません。まず今を確かめ、対策を作り出していく一歩につながるデータを各地から集めていきたいと考えています。

調査に参加して、ぜひ自分の手で身の回りのナタネを調べてみてください。そして、この問題について考えるきっかけにつなげてみてください。

開幕

写真展

磯原駅ちかくの喫茶店ケルンで、「有機農業の現場から」と題して、すずき産地の写真展が開幕しています。どうぞおいでください。

